

横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会会議録

- 1 日 時 平成 27年 2月26日 (木) 13時00分～ 15時00分
- 2 場 所 横浜みなとみらいホール 6階 レセプションルーム
- 3 出席者 石田一志委員、田中操委員、中村晃也委員、丸山宏委員、宮本とも子委員
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事内容

議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認 2 委員会の公開・非公開の決定 3 指定管理者平成25年度評価について 4 第2期中期計画について
委員意見等	<ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 2 委員会の公開・非公開について (審議結果) 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。 3 指定管理者平成25年度評価について (経営についての評価) (委員) <ul style="list-style-type: none"> ・10年計画の中で一つの流れをつくり、経費をなるべくかけないで継続的な活動を進めていくことが良い経営に繋がる。 ・コンベンション施設が隣にあるなど、海外の人も来る環境にあるので、それに合わせた事業をもっと展開したほうがよい。 ・市の政策である待機児童対策などとも連携するような事業展開がのぞましいと考える。 ・外部評価はBとする。 (事業についての評価) (委員) <ul style="list-style-type: none"> ・数値的な目標は達成できている。成果の報告をよりアピールしていければと考える。 ・みなとみらいホールの機能性や立地性を考えて、抜本的な事業の整理、検討が必要と考える。 ・事業の量よりも質を重視し、職員の配置などでも優先順位を付けて行くべき。また、組織内で事業の質を担保した評価を行っていくことも重要である。 ・ホールの特性をより出していくことが大切である。オペラの事業に反対はしないが、よりホールの特性を活かした取り組み方をすべきである。 ・長年オルガンインターンシップを行い、国際的なオルガニストになる人がここを通りたいと思っていることはA評価として高く評価する。 ・外部評価はBとする。 ・今後事業の整理にはどのように取り組むか。 (指定管理者) <ul style="list-style-type: none"> ・27年度の事業については、一度基本に帰る形で事業を絞り計画を立てている。求められているよ

うな全体的な見直しは、28年度の音祭りや、29年度以降に提示できるようにしていく。

〈他施設運営等についての評価〉

(委員)

- ・クラシックに興味を持っていない人たちに継続的なアプローチをすることで、クラシックに醍醐味を感じるようになっていくような取組を期待する。
- ・レセプションルームなど魅力的な場所を、より戦略的に活用していくことを期待する。
- ・25年度は大幅に赤字になっているが、原因の詳細な分析などは行っているか。

(指定管理者)

- ・海外大型事業で大幅な赤字となったことが大きな要因であるという結果になっている。今後の事業の実施にあたっては、事業が中止できるタイミングでも、財団の経営会議に諮っていくことになった。

(委員)

- ・収支はマイナスになっているが、数字のみで評価してしまうと先進的な事業を避ける傾向になってしまい、それではホールの魅力がなくなってしまう。そのような観点のみでは評価すべきでないを考える。
- ・施設運営、施設維持管理、その他の業務、組織に関する業務の基準、留意事項の外部評価はBとする。

〈基本方針（総括）の評価〉

(委員)

- ・国際性と地域性のバランスが重要である。海外の事業を実施するばかりでなく、市民が世界に誇るという自負があれば国際性は必然的にでてくる。
- ・前年度に比べ、事業の質が向上したことは評価できる。
- ・主体性を持った個性的なホール運営ということを念頭に置くことで、都市ブランドの形成に繋がる。
- ・ホールの場所と機能をいかに有効に、そしてうまく使うかということの基本方針としてもう一度考えてほしい。キーワードとして継続性が非常に重要である。
- ・赤字が直結して評価が悪いとはならないが、情報収集を上手く行い、ホールの運営に生かしていくことを期待する。
- ・市の取組も踏まえ、子どもの教育というのは音楽だけでなくすべて、音楽・全人格教育につながる。そのような観点からも芸術・文化の育成を行ってほしい。
- ・外部評価はBとする。

4 第2期中期計画について

指定管理者から「横浜みなとみらいホール指定管理第2期3か年事業計画書」について説明

〈質疑応答〉

(委員)

- ・提示してある「驚き」というキーワードは具体的にどのようなことか。

(指定管理者)

- ・新しいお客様を呼び込むための一つの仕掛けであり、横浜でしか体験できないような事業を打ち出すことである。平成27年度は、具体的にはショスタコーヴィチの事業などがある。

(委員)

- ・「驚き」というキーワードを使って今後どのような広報展開が可能か。

(指定管理者)

- ・映画館や旅行会社など他業態との連携などを企画している。

(委員)

- ・「驚き」ということであれば、17年間実施しているオルガン事業も驚きの一つである。そのことを市民に知られることも重要な工法である。
- ・目先の業績、収入ということではなく、長期展望に立った企画の立て方、それがワクワクするような広報であり、話題になる。
- ・チェコフィルの事業でも、公演とは別に若者同士が文化的な交流をするなど、ストーリーがあると特別な体験になる。そのようなコミュニケーションも含め教育を充実させてほしい。
- ・施設が老朽化しているが、対応しなければいけないものはあるのか。

(事務局)

- ・ビル管理システムを27年度に更新する必要がある。またクイーンズスクエア横浜は20年近く経過し、施設、設備、システムなど更新時期にきている。今後、施設全体で大型の改修が発生してくる。

(委員)

- ・27年度と28年度、29年度の助成金、協賛金の予算に差があるのはなぜか。

(指定管理者)

- ・27年度は助成金が決まっているが、その後はまだ決まっていないため、そのような数字になっている。

(委員)

- ・オルガンリサイタル、予定では公演回数は1回か。

(指定管理者)

- ・27年度については、若手オルガン奏者発信事業がオルガンリサイタルの一環になる。今までのインターン生が集まって公演を行うことが意義あるものとする。

(委員)

- ・オルガン事業は非常に良い取組と評価する。
- ・「横浜のクラシックファンからは世界的なアーティストの演奏会の実施を数多く期待されます」と記載があるが、根拠はあるのか。

(指定管理者)

- ・各事業でアンケートを行っているが、その中でも質の高い演奏が聞きたいという意見が多い。

(委員)

- ・大規模改修の時期はいつか。

(事務局)

- ・まだ時期は決まっていない。今後具体的に計画していくことになる。その際には長期間の休館が見込まれる。
- ・長期休館の際は、アウトリーチ事業など行わずに、事業の展開方法などを改めて考える時間に使うほうがよい。

(事務局)

- ・評価及び3か年計画は、事務局と指定管理者で調整・確認し、各委員に再度送付する。

